

感染症予防及び発生時の対応マニュアル

集団活動を行う場である、児童発達支援・放課後等デイサービスは、感染症に感染する可能性が高くなりやすい。感染症にかかる可能性を低くすること、また感染症が発生した場合でも早期発見し、拡大を防ぐことを 目的にマニュアルを作成する。

1、感染経路の理解

1.1 飛沫感染 咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛ぶ病原体が含まれた小さな水滴を近くににいる人が吸い込むことで感染する。飛沫は1-2m飛び散る。2m以上離れていれば感染の可能性は低くなる。

1.2 空気感染咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛び出した病原体が浮遊し、同じ空間にいる人 が吸い込むことで感染する。

1.3 接触感染 握手、だっこ、キスなどの直接接触感染と汚染されたドアノブ、手すり、遊具などを介して感染する間接触感染がある。病原体の付着した手で口、鼻、目を触ること、病原体の付着した遊具等を舐めること等によって、病原体が体内に侵入する。

1.4 経口感染 病原体を含んだ食物や水分を摂取することで感染する。

1.5 血液・体液感染 幼小児においては接触が濃厚であること、怪我をしたり皮膚に傷があることで、血液や体液を介した感染が起こりうる。

1.6 節足性動物感染 病原体を保有する昆虫やダニがヒトを吸血する時に感染する。

2、予防

2.1 手洗い 正しい手洗いを励行する。タオルではなく、ペーパータオルを常設する。また、玄関にはバイオトロール性抗菌剤を常設し、通所事業所に到着後、ノロノットにて手指消毒を行う様に指導を行う。

2.2 咳・くしゃみの対応 風邪症状がある場合にはマスクを着用することが望ましい。マスク着用していない場合は袖や上着の内側出口や鼻を覆い、飛散することを防ぐ。鼻をかんだ時、唾液が手についた時などは流水下で石鹸を用いて洗う。

2.3 嘔吐物 嘔吐物は、ゴム手袋、マスクを着用し、ペーパータオルや使い古しの布で拭き取る。拭き取ったものはビニール袋に二重に入れて密封して、廃棄する。処理後、石鹸、流水で手を洗う。手洗い後にはよく乾燥させて、バイオトロール性抗菌剤の噴霧を行う。嘔吐物のあった場所には、バイオトロール性抗菌剤の噴霧を行い、消毒をはかる。

2.4 便の取り扱い おむつ交換、トイレ介助時の排便処理の際は、使い捨て手袋を着用する。その後、石鹸を用いて流水でしっかりと手洗いを行い、バイオトロール性抗菌剤の噴霧を行う。